

(3) 委員による講評

○委員長 ただいま先生方と講評についてお話をさせていただきました。まずは「SGDASの推計精度向上に関する研究」の総合評価としては、1の「十分に目標を達成できた」ということで、委員全ての総意として、非常によい成果を出していただいたと考えています。SGDASとして機能するだけでなく、ゾーニングマップなどの一般社会のいろいろな場面で役立つような中間成果が得られたということがとても高く評価できます。

幾つか注文がございます。1つは研究から離れますが、SGDASは国の機関、自治体等が利用するわけですが、その中間成果についてはハザードマップポータルサイトに載せるなど閲覧しやすいような形での公表を、社会へ向けての発信としてやっていただきたいと思います。

それから、研究としてはこれで終了となりますが、この研究を推進するに当たって途中で得られた成果や疑問、それから様々な社会状況やデータの充実に合わせてアップデートしていくことを常に考えていただきたいと思います。運用としてはこれで走り出すわけですが、アップデートに必要な研究が随時行われていくことも期待しています。

本研究の達成においては、他機関との共同が非常に大きな成果だったんだろうと思います。それがうまく機能したということと、研究を牽引された岩橋さんを中心としたメンバーが非常によく本研究に貢献されたのだろうと思います。

また、もう一つの研究と併せて、後ほどもう1点だけコメントをさせていただきたいと思います。

続いて、「過去の地形データの作成手法とその活用に関する研究」の総合評価としては委員の先生方の満場一致で1の「十分に目標を達成できた」がよいということになりました。

それから本研究については、今後SGDASをはじめとした他の成果との連携をどのように行うかということをお考えいただきたいと思います。また、公開データは既定のものとなりがちのため、フィルタリング条件によって結果が変わるということも、利用者へ注意喚起していただきたいと思います。これは研究ベースではないですが、特に本成果は広く一般に公開されることとなりますので、その辺りの十分な認識がされずデータが利用されることのないよう注意喚起をお願いしたいと思います。

ここまでが個別の話になりますが、両課題を通じまして、担当された笹川室長、岩橋さんが非常に大きな成果を上げられました。人員が一部少ない中でも、これだけ十分な成果が上げられたということ自体は大きく評価すべきではございますが、だからといって、人員が少なくてもできるのだということではないということを考えていただければと思います。

委員の総意として、こういう研究を進めるに当たって、研究体制の構築や継続性というものは常に意識していただきたいと思います。少ない人数でもできるということではなくて、継続的にやっていくということを考えて十分な人員を配置した研究体制の構築をよろしくお願いいたします。

講評は以上になります。